

伊方原発 知事の決断に思う

大学嘱託職員：

(愛媛県 67)

県知事は有権者が直接選

ぶ。その知事が、有権者の大半が反対していることに賛成する。妙な話である。

愛媛県の中村時広知事が10月、伊方原発再稼働に同意した。地元紙の世論調査では県民の約69%が再稼働に否定的だった。知事は、事故対応の中樞を担う四国電力の原子力本部を、本店のある高松市から県内へ移転するよう求めるなど、四電に何度か大きな「課題」を突きつけ、直前まで「再稼働は白紙」の決まり文句を言っていた。しかし課題

を迫ることで再稼働の「地ならし」をしていたようにも思える。

私の家は原発から約60キロ離れているが、途中高い山などなく、事故が起きれば即座に影響を受けるだろう。原発が立地する半島では多くの孤立集落が出る危険性がある。だから知事も「国の責任」という言質にこだわったようだが、国が何をしてくれようか。福島第一原発事故で明らかだ。伊方町議会と町長、愛媛県議会と知事は、原発事故のリスクに町民、県民の命と財産をさらす決断をしたと言われて仕方あるまい。